



## 手を動かすという大事な習慣

明けましておめでとうございます。さて年があけていよいよ冬季オリンピックが開幕します。女子スキージャンプの高梨沙羅選手や男女フィギアスケートにメダルの期待がかかりますが、みなさんに応援してもらいたい種目に女子アイスホッケーがあります。氷上の格闘技と呼ばれるアイスホッケーはそのスピード感が魅力ですが一般にはあまりなじみがないかもしれません。女子日本代表は長野大会以来4大会ぶりの五輪出場。そのチーム最年少17歳の浮田選手と主力の山根選手はともに私の故郷釧路市出身で今も釧路のクラブで活躍しています。愛称「スマイルジャパン」のゴール後のおじぎパフォーマンスを五輪で見られることを楽しみにしています。

ところで二人とも五輪出場が、初めは夢だったのが途中から目標に変わったと言っています。みなさんも夢が目標になるように日頃の学習の積み重ねを大切にしてほしいのですが、ひとつ大事な習慣が欠けているように感じる時があります。それは手を動かして考えるということ。例えば小4の算数では図形の面積を求める時にちょっと補助線を引くとぐっとわかりやすくなることがあります。中2の図形になるとその作業をしなければ解けない問題もたくさん出てきます。また、高校入試の問題になると、式からグラフを書いたり、表を作ってみたりしてはじめて解答の糸口が見つかることもしばしば。しかし解説を聞いているときはそう思っている、いざ自分ひとりで問題に向かうと、じっとにらんだ直後に「やっぱりわからないや、これは捨て問題。」と放り出してしまう人を見かけます。手を動かすということは試行錯誤でもありますから、最短で答えにたどり着けるとは限りません。回り道になることもあります。でもその過程でアタマは確実に鍛えられていきます。中3のこの時期はもう時間内でいかに効率よく得点するかシフトしなければなりません。中2までのみなさんは今こそ習慣にしていってください。

念のため言っておきますが、「ペン回し」は手を動かしてはいても正反対の効果しかないのです、絶対にオススメしません！